

「健康寿命を延伸させるためにお薬との上手な付き合い方」をテーマに実施したワールドカフェの取り組みについて

定村美紀子 糸井和佳 佐藤亜月子

帝京科学大学 医療科学部 看護学科

The world cafe tried with the theme of “How to take a medicine for extend the healthy life expectancy”

Mikiko SADAMURA Waka ITOI Atsuko SATOU

キーワード：地域包括ケアシステム、服薬支援、多職種連携、ワールドカフェ

I. はじめに

2015年度の概算医療費は、41.5兆円と40兆円を突破し、過去最高を更新した。その内訳は、医科入院に16.4兆円（1.9%増）、医科入院外に14.2兆円（3.3%増）、歯科2.8兆円（1.4%増）、調剤7.9兆円（9.4%増）であり、薬剤費の増加が著しいと報告されている。中でも、75歳以上の医療費は、15.2兆円であり全体の約37%を占め、1人あたりの医療費にすると94.8万円（1.9%増）で、75歳未満の22.0万円（3.9%増）の4.3倍に上り、今後もこの状況が続くことが予測されている¹⁾。高齢者は年齢とともに多くの疾患を有し複数の医療機関を受診するなど服用している薬の種類が多い。認知症の発症など服薬管理能力が低下すると効果が得られないだけでなく、中途半端な服薬は「薬物有害事象」につながる危険があると言われている²⁾。医療や介護保険財政が悪化する中、限られた資源を有効に活用し、自助・互助・共助など個人の努力や地域で助け合える関係を作ることが求められている³⁾。在宅療養者に対する服薬支援において医療や看護、介護、リハビリ、福祉に携わる者がお互いの役割や価値観、ケアに対する考え方を知ることが必要である。そこで「健康寿命を延伸させるためにお薬との上手な付き合い方」というテーマで、地域包括ケアに携わる人々とワールドカフェを開催したので報告する。

II. 方法

1. 用語の定義

ワールドカフェ：「カフェ」にいるようになりリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれ1つのテーブルを構成し対話する。メンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていく。相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることにより生ま

れる場の一体感を味わう対話の方法。（参加者が自由に意見を出し合い、相互理解を深めることが重要であり、急いで問題を解決したり結論を出したり、終わった後に合意形成することが目的ではない⁴⁾）

地域包括ケアシステム：高齢者が「住み慣れた地域」で介護や医療、生活支援サポート及びサービスを受けられるよう市区町村が中心となり、「住まい」、「医療」、「介護」、「生活支援・介護予防」の包括的な体制の整備を行うこと。

2. 研究方法

1) 研究デザイン

質的帰納的研究

2) 研究対象

「健康寿命を延伸させるためにお薬との上手な付き合い方」についてワールドカフェの手法を用いて話し合った結果やアンケート結果を研究に用いることを説明し、同意が得られた者（29名）を対象とした。対象者の背景は、地域活動に関心のある一般住民6名、薬局関係者11名、地域保健福祉関係者6名、大学関係者6名であった。全体の属性は、男性（10名）女性（19名）であり、保健・医療・福祉に関する専門資格が「ある」と答えた者は、薬剤師（12名）、保健師（4名）、看護師（2名）、社会福祉士等（2名）であった。

3) ワールドカフェの実施について

- （1）運営及び進行について講師（以下、ファシリテータ）と企画案を作成した。
- （2）参加者の募集：地域包括ケアに関わる組織

(地域包括支援センター連絡会、健康づくりの会や自治会などの地域の住民組織、薬剤師会等)にチラシを配布しワールドカフェについて説明し参加を呼びかけた。

(3) 当日の流れ (表1)

①実施時間：14：30～17：00（2時間30分）

②会場設営：本学2号館2F教室を会場とし、参加者の緊張感を和らげるために音楽を流しカフェの雰囲気を演出した。

③準備及びルール

机を合わせてテーブルをセッティングした。教室にはお茶やお菓子を準備し、机の上には、模造紙、付せん、ペン（8色）、トーキング・オブジェクトを準備した。トーキング・オブジェクトとは、それを持っている人が話す、持っていない人は、話を聴くという役割を明確にするツールで、発言の少ない人の発言を促し、一人が話し続けてしまう状況を避けるために用いる。今回は、マスコット人形を使用した。具体的には、発言したい人がテーブル中央に置いたトーキング・オブジェクトを手に取り、発言が終わったら元に戻すという方法で実施した。

④グループ分けについて

参加者は29名であった。所属や日頃の活動内容などを聞いて「一般住民」「薬剤師」「保健福祉関係者」「大学関係者」に分かれ、そこから1名ずつ選出して4名ずつ7つのグループをつくった。

⑤ワールドカフェの実際

全体の流れについてファシリテータがオリエンテーションを行った。ワールドカフェとは、1995年にアニータ・ブラウンらによって開発・提唱された。組織の活性化やコミュニティの形成、創造的な会議、地域社会の活性化などで使われ、本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行う。言葉だけでなく、心の奥にある思い、意図、価値観に耳を傾け、「今、ここ」で感じたこと、思いついたことを大切にする。「ちょっとした発言が誰かの気づきにつながる」など、カフェのねらいやルールについて説明した。第1セッションでは、テーマである「健康寿命を延伸させるためにお薬と上手に付き合うための支援とは何か」について、テーブルごとに話し合った。支援される側、支援する側など服薬支援に関する経験や考え方などを語り、机の上に置かれた模造紙にメモをとりながら、対話する中で生まれたアイデアや思いついたことを書き残した。第2セッションでは、各テーブルにホスト（以下、マスター）を1名決めてマスターはグループに残り、他のメンバー（以下、旅人）は、旅行者として他のテーブルについた。マスターは、自分のテーブルに来た人に話し合った内容を説明する。旅人も各テーブルで出たアイデアを紹介し、繋がりを探求する。第3セッションでは、マスター1名が残り、旅人は、元のテーブルに帰

表1 当日の流れ

14：00	開場	
14：30～15：00	オリエンテーション、ワールドカフェの説明	
〔ワールドカフェ〕		
15：00～15：25	第1セッション	テーマ(問い)について話し合う（ダイアログ）
15：30～15：55	第2セッション	各テーブルマスター（ホスト）を1名残して、他のメンバーは、旅行者として他のテーブルにつく。マスターは、自分のテーブルのダイアログ内容について説明する。旅人は、自分のいたテーブルで出たアイデアを紹介し、つながりを探求する。
15：55～16：20	第3セッション	テーブルマスターを1名残し、元のテーブルに帰る
16：20～16：50	全体セッション	気づきのわちあい
16：50～17：00	クロージング	

る。最初のグループになって、他のグループで話した内容をメンバーと共有する。全体セッションでは、気づきのわかしあひとして、対話の中で気づいたことやこれから取り組みそうなことを全体で話し合った。最後は、ファシリテータの「どん

なことから始めたいですか？」の問いに対し参加者一人一人が、始めたいことを発表してワールドカフェを終了した。

表2 どんなことから始めたいですか

伝える	職場に報告（薬局の大切さ）
	他の職種に自分のできることを理解させる
	今日のことを職場に伝えよう
	家族、友だち、まわりの人にできることを伝えたい
つながる つなげる	地域の薬局と意見交換の場を持つ
	まわりの薬剤師を巻き込む
	つながりを広げる
	地域の会議に薬局を巻き込みたい
	もっとこんな機会に参加したい
	話しかける
行動をおこす	患者さんとのワールドカフェ
	包括として何かアクションをおこしたい
	薬局の外に出て、相談できるように
	研究（地域住民と協働した）をすすめる
	気軽に町に出る
薬剤師	薬局に行って、薬剤師と話をする
	訪問薬剤師を活用できたら将来安心
薬局	相談しやすい薬局の雰囲気をつくる
	なんでも気軽に相談できる薬局
	手のあいた時間はなるべく待合室にいるようにする
	薬や他のことでも相談したい
	薬局を薬をもらうところだけでなく相談できるところに
	信用できる薬局（薬剤師）であることをめざす
信頼	信頼される薬剤師に
	いろんな職種から相談にのってほしい
知る	近所の薬局の取り組みを知りたい
	もっと患者さんの生活スタイルを知りたい

表3 多（他）職種連携について現在の取り組みや今後取り組んでみたいこと

交 流	相互の役割、強み（弱み）、地域に対してできることを法律や制度上での話ではなく、実際の現場をふまえた言葉で交流したい
	地域包括支援センター実習ラウンドで現場の人の連携を学生が学べるように願います
	地域の薬局を知り、薬剤師さんと仲よくなる
場づくり	今日のような多職種が集合する場をもうける
	ワールドカフェ
領域を越える	在宅調整会議やあんしん会議への参加、担当者が行っているの自分もいつか参加したいです
	足立区の会議、ワールドカフェに積極的に参加、自局でもやってみたい。
	地域包括さんの連絡会に、今まで以上に入っていく
	ケアマネジャーのケアカンファレンスに出てみたい
	いろいろな職種の方々と話し合い知識を積みたい
	リハビリ職や医療職の方との連携
	多くの職種の方とかかわりたいです
	ワールドカフェのような物でも他職種の方ともっと話しをする機会があれば良いと思った
薬 剤 師	今後のケア会議に薬剤師さんも参加していただけるよう依頼した
	薬局相談できる所がさがす
	薬に関することは薬剤師にお聞きする
ノートの活用	連絡ノートでバイタルチェックしたり、排泄、食事摂取量に問題があれば医師に連絡している

4) 実施時期及び実施場所

実施時期：2016年7月9日（土）

場所：帝京科学大学2号館 2F教室

5) データの収集方法

- ①クロージングの問い「どんなことから始めたいですか？」の発表内容
- ②アンケートに記載された感想及び以下の質問をカテゴリ化した。
「多（他）職種連携について現在の取り組みや今後取り組んでみたいこと」

6) 分析方法

分析にあたっては、質的分析の経験豊富な共同研究者と意見を交換し、客観性の確保に努めた。

7) 倫理的配慮

対象者に口頭と文書で研究目的と方法を説明し、匿名性の遵守、拒否の自由、データの管理、結果の公表等について説明し同意を得た。本研究は、帝京科学大学人を対象とする研究に関する倫理委員会の承認を受けている。

Ⅲ. 結 果

1. どんなことから始めたいですか

一般住民では、「千住の薬局をしらべる」「なんでも気軽に相談できる薬局」「薬局に行って、薬剤師と話をする」「薬や他のことでも相談したい」「相談できる薬局をさがす」「家族、友だち、まわりの人にできることを伝えたい」「かかりつけ薬局を見つける」「もっとこんな機会に参加したい」。薬剤師は、「相談しやすい薬局の雰囲気をつくる」「信頼される薬剤師に」「手のあいた時間はなるべく待合室にようにする」「気軽に町に出る／まわりの薬剤師を巻き込む」「他の職種に自分のできることを理解させる」。薬剤師以外の専門職では、「職種にとられない対話と行動」「つながりを広げる」「地域の会議に薬局を巻き込みたい」「今日のことを職場に伝えよう／包括として何かアクションをおこしたい」「職場に報告（薬局の大切さ）」「患者さんとのワールドカフェ」等があった。上記の内容をカテゴリ化し、「伝える」「つなげる／つながる」「行動をおこす」「薬剤師」「薬局」「信頼」「知る」に分類した（表2）。

表4 ワールドカフェの感想や地域連携にどのように取り組むか

感想としては、大変勉強になり楽しかったです。このような機会が多くあれば、上手く多（他）職種連携が進むのではないのでしょうか
参加者が満足感を得られる手法と思った
おもしろい体験でした。いろいろな体験をされている方たちとの対話が楽しかったです。また、ぜひ、参加したいです。
楽しかったです
連携を取りたいと思っていても相手はそうは思っていないことも多く、困ります。ただ、もしかするとこちらの意図が通じていないのかもしれないと感じました。いつも当たってくださってばかりですが、何度くだけでもぶつかっていかうと思う力が出てきました。ありがとうございました。
専門職だけでなく、住民の方を含めた点が新しく、とても参考になった。
薬剤師はやはり、知名度が低いと思った
とてもよかった、もっと気軽にお互いを知るチャンスがこのようなスタイルできるといいなと思いました。
ワールドカフェは、いろいろな意見を聞けることも良いですが、話しをすることで自分の考えをまとめる事ができてよかったです、4月からの診療報酬改正以前より、悩んでいたことが形になりそうです。
いろいろな話、考えがきけて楽しかったです、薬局は日常的忙しさもあり、なかなか連携の場に出ていけないのが現状ですが、少しでも参加できるように努力、工夫したいと思いました。
一般の方や包括の方などの意見が聞けて良かった
もっとたくさんの人に参加してもらえると良いかもしれません
カフェに出席してとても勉強になりました。現在包括支援センターで利用者さんのお役に立つ様な活動を行っていますが、自分自身に気をつけてお役に立ちたいと思っております
もっと回数を重ねて知識を積みたい

2. 多（他）職種連携について現在の取り組みや今後取り組んでみたいこと

「相互の役割、強み（弱み）地域に対してできることを法律や制度上での話ではなく、実際の現場をふまえた言葉で交流したい」「今日のような多職種が集合する場をもうける」「地域包括さんの連絡会に、今まで以上に入っていく」といった内容が記載されており、類似する内容として「交流」「場づくり」「領域を越える」「連携」「薬剤師」「ノートの活用」の要素を分類した（表3）。

3. ワールドカフェの感想や地域連携にどのように取り組むか

「大変勉強になり楽しかったです」「参加者が満足感を得られる手法」「おもしろい体験でした」「いろいろな体験をされている方たちとの対話が楽しかったです」「楽しかったです」「専門職だけでなく、住民の方を含めた点が新しく、とても参考になった」「ワールドカフェは、いろいろな意見を聞ける

ことも良いですが、話しをすることで自分の考えをまとめる事ができてよかった」という内容であった（表4）。

IV. 考 察

1) 地域包括ケアシステムを推進するために話し合いの場をもつ必要性

カフェ終了後にファシリテータが発した「どんなことから始めたいか」という問いに、「伝える」「つなげる／つながる」「行動をおこす」「薬局」「信頼」「知る」といった要素が抽出できた。カフェの内容を他者に伝える、会議に参加する、信頼されたいなど連携に対するモチベーションが高められたと考えられる。また、アンケートの、「多（他）職種連携について現在の取り組みや今後取り組んでみたいこと」は、「交流」「場づくり」「境界を越える」「連携」「薬剤師」「ノートの活用」などが抽出された。これらから、ワールドカフェは、限られた時間をグループのメンバー全員が話しやすい雰囲気、自

由に発言して良いこと」「誰かが話している時は、全員で話を聴く」などのルールによって対話しやすい環境が整えられ、多様な意見や価値観に触れることができ、個人の考えを客観化することができたと考える。対話の場は、議論の場ではない。自分の意見が否定されず、尊重される安全な場で対話を重ねることができ、参加者相互の関係性が深まり気づきや意欲を高めることができたと考える。ワールドカフェは、日頃それぞれの立場で地域ケアに携わる者が、所属を越えて自由にアイデアを出し合う場となったと考える。今回のテーマは、「薬」に関する内容であり、専門的な知識をもつ薬剤師が身近にいたことで、地域包括ケアシステム構築において薬剤師を活用することの必要性に気づき、薬剤師自身も自己の役割を再認識できたと考える。生活は様々な要素で成り立っている。1つの専門職の視点だけでは対応できなくなっていると野中⁵⁾らは述べている。地域包括ケアは多面的な視点で対象の生活を把握することが大切である。参加者はそれぞれのもつ専門性や経験を語ることで、自身の立場や役割を確認する機会が得られ、服薬支援に対する興味や関心が深まったと考える。

2) ワールドカフェについて

アンケートには、「おもしろい体験」「いろいろな体験をされている方たちとの対話が楽しかった」「話しをすることで自分の考えをまとめる事ができてよかった」「参加者が満足感を得られる手法と思った」などの感想があった。ワールドカフェは、少人数でグループをつくり、トーキング・オブジェクトを用いるなどのルールを定めた。一人一人の発言の機会が増えることは、主体的に参加している意識を高めることにつながり、途中でメンバーを入れ替えたことで、短時間で全員と話し合ったような感覚を覚えることができたと考える。また、ファシリテータの「正解や間違いはない、結論を出すのではなく、自分自身のことを話し、『今、ここ』で感じたこと、

思いついたことを大切にする」というアドバイスが、言葉だけでなく、心の奥にある思い、意図、価値観に耳を傾けさせることができたのではないかと考える。「対話を楽しむ」「結論を求められない」「批判されない」「話を聴いてもらっている」という意識を参加者同士が共有でき、個々のもつ経験が新鮮な意見として取り入れられたのではないだろうか。ワールドカフェは、聴く側も話す側も満足感が得られる話し合いの手法であったと考える。

V. 結 論

1. 地域包括ケアは多面的な視点で対象の生活を把握することが大切である。
2. ワールドカフェは、参加者の主体性や気づきを引き出す場となった。

謝 辞

本研究は、平成28年度公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団啓発事業の助成を受けて実施しました。

引用／参考文献

- 1) 厚生労働省：概算医療費データベース 厚生労働省（ホームページ）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryouhoken/iryouhoken03/01.html> (2016.10.11)
- 2) 東京大学高齢社会総合研究機構[編]：地域包括ケアのすすめ, 東京大学出版会, p3-31, 2014
- 3) まちの薬局（ホームページ）
<http://photo-pharmacy.com/prescription/koureisya3.html> (2016.10.16)
- 4) ワールドカフェネット（ホームページ）
<http://world-cafe.net/about/about-04.html> (2016.10.11)
- 5) 野中猛：第1 講なぜ連携なのか, 多職種連携の技術, 中央法規, p9-30, 2014